

# オタネニンジンのハウス内ポット育苗に適した培土

福島県農業総合センター 会津地域研究所

## 1 部門名

特用作物－薬用ニンジン－栽培型、育苗

## 2 担当者

星 佳織 ・ 大竹真紀 ・ 野田正浩

## 3 要旨

オタネニンジンの育苗に市販の育苗培土(表1)を使用すると、苗を安定して生産できる。

(1) 鹿沼土は、8月上旬に8割の株に地上部萎凋が生じた(表2)。

(2) 鹿沼土以外の3培土は、鹿沼土よりも根長が比較的長く、良苗の1年生株となった(表2)。

表1 培土の組成

培土名	組成	pH
タキイ セル培土TM-1	主成分:ピートモス、バーミキュライト、パーライト 苦土石灰、透水剤を微量配合	5.1
サカタのタネ 有機の土	主成分:ピートモス、バーミキュライト、パーライト 苦土石灰、バイオエースを微量配合	5.0
イワタニ ミックスピートBM-1	主成分:ピートモス、バーミキュライト、パーライト	5.4
鹿沼土(細粒)	—	5.9

注1) 試験にあたり、各培土の肥料成分の補正は行っていない。

表2 生育比較(H29年度調査)

	6月12日調査		8月3日調査		10月23日調査			
	出芽率(%)	地上部萎凋率(%)	草丈(mm)	最大葉長(mm)	全根長(mm)	主根長(mm)	最大根径(mm)	根部新鮮重(g)
セル培土	12	0	84±4.1	47±2.6	146±20	41±10	5.4±0.4	0.6±0.1
有機の土	13	0	95±11	44±3.9	133±21	37±5.5	4.8±0.6	0.4±0.1
BM-1	13	0	102±9.8	38±3.5	130±24	33±9.5	3.8±0.2	0.3±0.1
鹿沼土	11	80	—	—	89±15	17±3.3	3.7±0.4	0.2±0.1

注1) 試験場所:会津地域研究所内ガラスハウス、使用ポット:プラスチック製ポット(直径10cm、高さ20cm)、播種日:H28年12月2日 約10日おきに灌水

注2) 草丈、最大葉長、全根長、主根長、最大根径、根部新鮮重の値は平均値±標準偏差

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成28年度～30年度

(2) 研究課題名 ふくしま「医食同源の郷」を目指した「オタネニンジン」「エゴマ」の省力・低コスト安定生産技術の確立

(3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

## 5 主な参考文献・資料

なし